

令和5年度第1回射水市地域公共交通活性化協議会 会議録

- 1 開催日時 令和5年12月26日(火) 午後2時30分～午後3時30分
- 2 開催場所 大島コミュニティセンター3階大ホール
- 3 出席者 本田会長、川腰副会長、中松委員(代理:石須氏)、
太田委員、釣谷委員(代理:重吉氏)、宮腰委員、原田委員、
白川委員、楠委員、田中委員、石井委員、安田委員、
渡辺委員、野開委員、石黒委員、中尾委員、景山委員、
有田委員(代理:谷村氏)、石橋委員、片岡委員、篠田委員、
長谷川委員
- 事務局 菅原市民生活部次長、明野生活安全課長、水島班長、
土橋主査、佐伯主任
- 欠席者 上野委員、前田委員、新倉委員、津田委員

4 会議概要

(1) 開会

(2) 組織運営事項

① 会長互選

会長 富山大学都市デザイン学部教授 本田氏

② 副会長指名

副会長 射水市地域振興会連合会副会長 川腰氏

(3) 射水市地域公共交通計画の策定について

資料1

(事務局説明概要)

- ・本市における現状と課題を整理し、持続可能な公共交通の実現を目指す計画として策定する。
- ・令和2年3月に策定した「射水市地域公共交通網形成計画」の計画期間は令和6年度までとなっており、令和7年度に向けて、「射水市地域公共交通計画」を策定する。
- ・計画期間は令和7年度から令和11年度までの5年間とする。
- ・令和5年度に2回、令和6年度に4回の協議会開催を予定しており、令和6年12月にはパブリック・コメントの実施を予定している。

(委員)

- ・「富山県地域交通戦略」についても取り上げてもらってありがたい。公共交通は県だけでやっても良くならないので、市町村との連携が大事だと考えている。「富山県地域交通戦略」との連携について言及してもらったのは大変心強い。
- ・公共交通は地域の魅力に直結する公共サービスであると認識しており、沿線自治体、県民の皆様、企業、店舗がそれぞれ、地域の魅力活力向上のために、投資、参画という形で認識することによって実現していくという考え方も、計画策定の際の参考にしてもらえたらと思う。

(事務局)

- ・公共交通も公共サービスの一環であることを念頭に、投資や参画を促すことを市としても努力していきたい。

(会長)

- ・富山県は車社会であり、これからの人口減少、高齢化も加速する中で、公共交通を取り巻く状況は良い方向にはいかないはず。しかし、そのような中でも、良いものを提供すれば、それなりに需要はある。
- ・地域公共交通計画をしっかりと作りながら、市民の方に参画いただくことが求められるので、この協議会もそのような視点で、ご協力をいただけたらと思う。

(4) 射水市の地域公共交通について

資料2

(事務局説明概要)

- ・本市には、あいの風とやま鉄道と万葉線、富山地方鉄道と加越能バスの民間路線バス、コミュニティバス等が運行している。
- ・地域の特性を考慮しながら、市内全域で公共交通網の整備に取り組んできた。
- ・高齢者の移動手段の確保、2024年問題等、新たに直面する課題への対応が求められている。
- ・一部地域でAIオンデマンドバス「のるーと射水」の実証運行を実施し、利便性向上と運行効率化に取り組んだ。

(委員)

- ・のるーと射水の他地域での実証運行は考えているのか。
- ・実証運行の結果について、検証する場があって然るべきかと思う。

(事務局)

- ・のるーと射水については、実証運行の結果を集計しながら、分析していくところである。アンケート調査も実施しているので、そこから見えてきた課題等も踏まえて、地域公共交通会議でも協議のうえ、今後どうしていくか考えたい。

(委員)

- ・のるーと射水の実証運行期間中、射水市南東地区においては、のるーと射水、コミュニティバス、黒河あいのりタクシーの3つの移動手段が重なっていたことにより、乗客が分散したというイメージはあるか。

(事務局)

- ・のるーと射水については、若年層などの新規の利用もあったと考えている。なお、行きはコミュニティバス、帰りはのるーと射水という使い方をしてきた人もいたので、利便性は上がったと考えている。

(委員)

- ・利便性の向上と同時に、経費も増えたと思う。地域公共交通をどうするか考えたとき、例えば、AIオンデマンドバスが便利だから、コミュニティバスを無くしていく方向になるのか。
- ・全市を走っているコミュニティバスの今後の方向性が曖昧になりそうな感じがしたので確認させてもらった。

(事務局)

- ・今後の協議になると思うが、基本的には、色々な交通モードを活用しながら、利便性が高まるような計画になればよいと考えている。

(会長)

- ・コミュニティバスの利用状況について、令和2年度は下がっているが、その後は増加している。一定の方が利用しているということか。

(事務局)

- ・コロナが5類になったことで、外出する機会も増えたと感じている。地域によって若干の増減はあると思うが、全体では増えている。

(会長)

- ・のるーと射水の利用者数については、事前に予測などはあったのか。それに対してどうだったか。

(事務局)

- ・ 想定範囲内だったと思うが、輸送力にはまだ余裕があった。

(副会長)

- ・ のるーと射水の他地域への拡大はいつになるのか。
- ・ のるーと射水のアンケートは何か考えているのか。

(事務局)

- ・ のるーと射水の運行エリアについては、地域の特性も踏まえて、地域公共交通会議等で協議することになるが、少しずつ拡大できればと考えている。
- ・ 今回のアンケートについては、市全体の交通について考える設問にしているため、のるーと射水に絞った内容にはしていない。
- ・ のるーと射水については、利用者された方にアンケートを実施している。

(5) 協議

① 市民アンケート調査について

(事務局説明概要)

- ・ より良い公共交通網の実現を目指すために市民の移動実態やニーズを把握するために実施する。
- ・ 対象者は、11月30日時点で16歳以上の世帯主とする。その中から、3,000世帯を抽出して実施する。
- ・ できるだけ多くの方に記載してもらうために、1世帯あたり案内文1通と調査票3通を送付し、ご家族の中の16歳以上の方、最大3名にアンケートのご協力をお願いしたいと考えている。
- ・ 発送は1月中旬を予定しており、2週間ほど間を置いて、投函期限は1月31日(水)で設定している。
- ・ 案内文の裏面には、調査票の「新しい公共交通の導入について」に回答してもらうために、オンデマンド交通がどのような交通手段なのか、知ってもらうための内容を記載している。

(質疑応答なし)

(5) 閉会